

志賀高原ハイキング

2020年7月11日

和田 宏

鬱陶しい梅雨時に涼しい高原を、紫外線の強さを気にしながら高齢者のグループでハイキングする、贅沢な時間を楽しめます、なのにお金もかからないお話しです。

7月の初め2泊3日の志賀高原は晴天に恵まれ、スカイブルーの空の高さ、可憐な高山植物の花の輝き、白樺をはじめ広葉樹の濃い緑、そして湿原や湖沼の虫動植物の姿、等を楽しみました、それらは何度も繰り返し訪れてきます（去年は雨で傘とカップの行進でしたから今回は2回分の楽しみ）。

我々は数年前からコントラクトブリッジを楽しんでいるグループでプレイの腕もまちまちなら年齢もフィジカルコンディション（ウェストや足の長さ）もいろいろで、ハイキングなど話題にもなりませんでしたが、全ての男共が仕事を卒業した頃、自然発生的に先ず手始めに温泉合宿ブリッジ教室を経て、折角だからと追加したハイキングが好評で、それならとハイキングに軸足を移したのが今回のような「ちょっと遠くへ出かけよう」ハイキングです。

初めから紹介しましょう、目ざといばかりでなく気の効く幹事役が欠かせません、良い眺めと温泉、格安で、一人で行くには億劫な距離、適当な人数枠、のツアーを、鷹の目で毎日のようにスキャンして、見つけたらE:Mailで仲間に連絡、反応を見たら適当な人数で先行手配して、予約人数になるようにまとめる。これを三日間位で済ませる、出発は一週間後である。

今回のツアーの骨組みは、バスが火曜の朝7時：浜松駅発、豊橋駅でも数人の参加者を乗せて満席50人、豊川から高速道路で、一時間ごとの小休止を採りながら駒が岳SAでお弁当を購入、1時半には志賀高原熊の湯温泉のホテルに到着、これから自由時間である、木曜の2時半に帰りのバスが出る、浜松着は8時半であるから、夕食はお弁当を購入する。バスにはツアーコンダクターも付いて2泊3日で料金が20000円、

第一日目、1時半、熊の湯温泉に着いて、部屋が決まって旅装を解いたら夕食までの4時間をどうするか、ブリッジゲームでは勝手なことを主張して譲らない輩が多いのにこの場面では良く意見がまとまって田ノ原湿原へ徒歩で行くことになった、水筒だけの軽装でホテル玄関に集合、顔を見合わせてUVクリームが必要とだと気付き男共も慣れない手つきでべたべたとやって歩きはじめる、

バスの道を北へ歩く、熱湯が噴出す平床、木戸池を左に見ながら進むと眼下に湿原の木道が見え始める、約1.5時間、湿原の北端から木道を南へ戻る、山野草の観察班は図鑑を開き拡大鏡を手に同定に余念が無い、この時期はワタスゲが主役である、地味な白い花だがこれだけ集まると見るものに感動を与える、小高い丘を越えると木戸池の畔に出て往復3時間でホテルへ（健脚であれば二時間とか?）、温泉で汗を流して夕食そして仕上げはCブリッジ、9人2テーブル3ボード、ボードアマッチ+VP採点で夜が更けて行った。

第二日目、温泉の好きなメンバーは朝食前に入湯、7時半に朝食、ホテルのお弁当、コップェル、水等をリュックサックに収めて8時半にはバス停に集合、長野電鉄バス一日乗り放題1000円の「得々切符」を買って、高く青い空を見上げて感謝の言葉を唱えて出発。目指すは岩菅山(2295m)。バスは白樺林、三角池、小池、等を経て蓮池で乗り換え、ここからロープウェイも利用できるが出費を抑えるにはバスが一番、バスで発鳴温泉へ、ここまで約40分、あたりは急峻な樹海に良くこれだけホテルを建てたと思わせる眺めである、次は東館山ゴンドラリフト往復1500円で東館山(2030m)まで、ここは四方の眺望が楽しめる、岩菅山はここから片道3時間、一同案内標識に従って進む、昔は足も心臓も強かったメンバーは目の前のゲレンデを登るのが一苦勞、健脚の男二人は直ぐに背中が見えなくなり、健脚の女性二人も樹海に入ったら声が聞こえなくなった、それでも何とか11時に寺子屋山(2125m)に到達、イワカガミの花も見たしランチは東館山に引き返して採ることにした、そこへ先行の女性二人が戻って来て一言「とてもじゃない」、登頂組みの話に拠ると、この先は少なくとも三つ谷へ降りては登る心身ともに強靱さが求められるルートだそうです。

昼食の時間はたっぷり有るしコーヒーも飲めて会話が弾みました、残念なのはブヨが多いこと、これは一週間後にはトンボが沢山やってきて退治してくれるそうで、タイミングの問題でした、まあ良いか。

植物園には美味しい湧水があり疲れを忘れさせます。その近くの幾つかの池にはそれぞれに特徴があって、一の池には無数のヒキガエルのおたまじゃくし、浜松地方より四ヶ月遅い生育である。次の池には数個づつ翡翠のような(マスカットの半分のサイズ)山椒魚の卵が鶏の卵と同じくらいの卵白に包まれて浮かんでいる、説明板を見ると産み落とされて間もないらしい、ミツガシワの白い花と30年振りに見るミズスマシ、更なる池はアカ蛙のオタマジャクシの楽園、モウセンゴケ、可憐なツマトリソウも、ニッコウキスゲはこれからの感じ。

第三日は疲れているはずなのに意気は軒昂で渋池と四十八池を楽しむことになった、ホテルから東へ少し上って、前山リフト全長300m往復600円、直ぐに前山湿原、ここもワタスゲの世界である、東へ進むと渋池で水面の上に伸びた枝にはモリアオガエルの白い卵塊、低い所のはシュリーゲルアオガエルの卵塊であろう、浜松近郊と比べると2ヶ月遅れている、更に一時間進むと四十八池で珍しい湿原の眺めが楽しめるのであるが俄かに連日の疲れが襲ってきてペースダウン、引き返すことにした。

楽しかった三日間ですが、振り返ってみると温泉食事ハイキングに加えて、樹木や草花に興味を持って観察、名前や特徴を話題にするのが良かったと思います、鳥や蝶トンボ水辺の生き物についても同じ(極楽鳥やコアラは居ないが)、そしてリーダーシップを発揮する勉強家に感謝。そして、良い旅をすると、次回も、来年もと、未来志向に繋がるのが貴重だと思います。

以上



1、田の原湿原の木道、ワタスゲ。



2、寺子屋山のイワカガミ。

私 和田へのメールは[ここへ](#)